

大 王 や し

発行所 台中日本人学校(台中縣日僑学校) 電話 04-2567-2079
FAX 04-2567-2085
e-mail tjs97@ms18.hinet.net
ホームページ <http://myweb.hinet.net/home5/tjs97/>

校長室より

校長 小波津繁雄

1 充実の修学旅行

本校の中学部の修学旅行は、2年毎に実施しておりますが、実施年の今年度は去る6月12日(月)から15日(金)までの4日間、日本へ行ってまいりました。今回は、飛行機便の出発時間の都合により桃園で前泊する形になりましたが、旅行期間中は生徒・引率者ともに体調を崩すことなく、予定のプログラム通り行動し所期の目標を達成して、無事台中に帰ってきました。

1 1日(月)桃園で前泊

その日は、午前中、学校で授業を受け、午後1時30分頃に後輩や職員に見送られ大雨の中スクールバスで桃園に向かいました。桃園に着く間、バスの中では楽しくゲームをしながらお互いの絆を深めることができました。夕食時間の10分前には、会場入り口に全員が揃い、豪華な中華料理を美味しくいただき幸先の良い修学旅行のスタートとなりました。

1 2日(火)日本へ出発、奈良の明日香村へ

全員、早朝5時起床を諸ともせず、本格的な修学旅行に向け機敏な行動が見られました。出国前の手続きは大変緊張していましたが、全員スムーズに完了し日本へ向け出発しました。さすが、飛行機の後部車輪が離陸した際には、感動の余り歓声が上がりました。未知なる地への大きな夢と期待がさらに膨らんだようです。最初の目的地である関西国際空港から奈良の明日香村までは、近畿日本ツーリストの大型バスで移動し、到着後はうだるような暑さにも関わらず元気にレンタサイクルを利用し、班毎に飛鳥資料館や飛鳥寺を熱心に見学しました。夕食後は、ホテル専用のレジャープールでひと泳ぎし、疲れた体をほぐしました。

1 3日(水)日本古来の歴史的建造物[法隆寺、東大寺]などを見学

社会科で学んだ五重塔や南大門、法隆寺や大仏様を見学しました。初めて見る世界的に有名な歴史的な古代木造建造物を見学することで、先人の偉大さを知り、歴史の深さに直接触れることで改めて日本の伝統や文化に関心を持つことができたと思います。見学途中に、大仏様の鼻の穴の大きさの空洞をくぐった感想はいかがでしたか。当日は、時間にして約4時間ほど歩いての学習でしたが、ハードなスケジュールで疲労困憊いしながらも、公園内に1300頭もいると言われている鹿とも愉快地戯れるなど貴重な体験ができました。昼食後は古都京都に移動し、京扇堂で伝統的な扇子作りに挑戦しました。それぞれの個性をいかんなく発揮し、下書きから色塗りまで丁寧に行い、完成させた扇子に感激していました。約40日後には見事に変身したオリジナル扇子が手元に送られてくることになっていますので本当に楽しみです。夕食後には、これまでの行動面が評価され、予定にはなかった京都タワーからの美しい夜景を見ることができました。

1 4日(木)京都市内班別研修、そしてユニバーサルシティへ

修学旅行期間中の難関、京都市内での班別研修では、地図を見ながら電車やバスを利用し銀閣寺や清水寺などの調査学習を行いました。勿論、初めて自分で電車を利用したり、慣れない地域でのバス移動などドキドキしながらの実地研修でしたが、班員の協力で見事にクリアできました。最後に、宿泊ホテルまでみんな無事に到着した時は、職員一同ほっと胸を撫で下ろしました。当日は、一日中雨でしたが、それにもめげず雨具を着用しながら元気に行動しました。その後、多くの生徒が楽しみにしていたユニバーサルシティでは、異国情緒を楽しんだり映画の世界にどっぷり浸ったりすることができたこと

でしょう。いよいよ修学旅行最後の夜、期間中の思い出話に花が咲き、きっと遅くまで寝付けなかったことでしょう。

15日(金) 帰路、台中へ

午前10時には、修学旅行の最後の宿泊場所となった大阪ユニバーサルシティホテルで退館式を終え、関西国際空港へ向かいました。生徒の中には、空港の玄関で立ち止まり、「日本最高。」とか、「台湾に帰りたくない。」などつぶやく者もあり、修学旅行を満喫したことが伺えました。

桃園国際機場から台中の自然科学博物館まで、道が混雑し何と4時間もかかりましたが、楽しかった修学旅行の余韻を楽しむように、バスの中では歌を歌ったりゲームをしたりと旅行日程が終わるのを惜しみました。解団式では、団長が旅行の簡単な報告をし、実行委員長が生徒を代表し「とても楽しい修学旅行でした。ただ今無事に帰ってきました。」とあいさつを行い、迎えていただいた多くの保護者や先生方にお礼を申し上げ、修学旅行の全日程を終了しました。

2 水泳学習

児童・生徒が楽しみにしていた水泳学習が、6月11日から始まりました。

今年の3月にプールの電動移動式屋根が完成し、今シーズンからは直射日光を受けることなく水泳学習が行われることになりました。プールは、この屋根のおかげで炎天下より気温が2度から3度ほど低い状態になり、安心して水泳学習ができることを大変喜んでおります。改めて、予算を提供していただいた学校運営委員会に感謝したいと思います。

早速、きれいな水が入ったプールで、毎日、子どもたちは元気いっぱい水しぶきや歓声を上げながら楽しい水泳学習を行っています。小学1年生は、水泳着の正しい着方や着替え方から学習しています。泳げない子も必ずいつか泳げるようになると思いますのでご期待下さい。また、9月21日には、校内水泳記録会を予定していますが、児童・生徒の皆さんが個人の目標をクリアできるよう、保護者の皆様の温かい激励をお願いします。

なお、水泳学習を進めるに当たって、水泳がある日は、必ず保護者による健康チェックと活動して良い旨の承認印が必要ですのでよろしくをお願いします。水泳学習は、命に関わることもあることから、本校では指導体制を厳しく行っていますので、保護者の皆様の特段のご理解、ご協力をお願いいたします。

3 授業参観週間及び進路説明会

本校では、6月20日(水)から26日(火)の間、授業参観週間ということで、ご都合のよい時間に保護者の皆様に授業を参観していただきました。中には、連日熱心に参観なされた方もいらっしゃいましたが、いかがだったでしょうか。学校へのご要望などございましたらご連絡ください。

また、6月21日には進路説明会を行いました。例年10月頃行われていたこの進路説明会は、昨年度の反省を踏まえ今年は早い時期に開催しました。説明会には、中学部の保護者だけでなく小学部の保護者にもご参加いただき、充実した説明会となりました。在外教育施設での進路への取り組みは、日本国内とは大きく違い早い時期からの進路選択と進学準備が必要です。また、在外の特殊事情から、進路希望校の正しい情報などについても保護者自ら収集する必要がありますのでご承知置き下さい。

今、社会では、どこの学校を卒業したかということより、学校で何を学んだかを重視しているそうです。行ける高校ではなく、行きたい高校に行けるよう努力しましょう。将来の自分の生き方や夢、職業をじっくり考え、今何をすべきか落ち着いて考え進路を選択しましょう。そして、中学3年生は、今度の夏休みを計画的に過ごすと共に、進学先を実際に見学し調査するなど充実した取り組みができるようにしましょう。

4 PTAバザーへのご案内

本校PTA(代表:森本良詩子会長)は、来る7月7日(日)午後1時から3時まで、体育館でPTAバザーを開催します。この事業は、本校PTAが主催し「学校備品を充実させる目的」で毎年行っていますが、それに先立ち6月20日(水)から実施しています授業参観の日を利用し、バザーに提供して下さる物品を受け付けました。会員や大型スーパー、企業などからも提供品が続々寄せられバザーの準備が着々と進められております。

また、当日は、会員の皆様、ご家族の皆様、地域の皆様、関係者の皆様、多数の方々のご来校を心からお待ちしております。

5 学校開放について

台中日本人学校では、毎月第一・第三土曜日を学校開放日として設定し、午前9時から12時まで図書館や運動場、体育館などを開放しておりますのでご利用下さい。ただし、開放時のお子さんの管理については、それぞれの保護者の方でお願いいたします。なお、学校開放日には、本校担当職員も出勤しますので何かあればご相談下さい。今年度の7月以降の開放日を下記に紹介しますので、どうぞご利用下さい。

【学校開放日】

7月7日(土): 当日は、午後からPTAバザーがありその準備のため体育館は使えません。

9月1日(土)、10月6日(土)、10月20日(土)、11月3日(土)、11月17日(土)、12月1日(土)、12月15日(土)、1月19日(土)、2月2日(土)、2月16日(土)については、上記の説明のとおり使用できます。

窓

6月6日(水)小中交流会



縦割り班ごとにお弁当を食べた後、体育館でゲームをしました。小学部1年生から中学部3年生までのみんなが、楽しい時間を過ごしました。

6月6日(水)～8日(金) 歯みがき指導



薬で赤く染めた歯垢を、手鏡片手にみんな一生懸命落とそうと、頑張って歯を磨きました。歯垢がいっぱいあって、みんな驚いていました。

6月中旬 プール開き～水泳学習



ペンリレー

台湾・台中にて

教師生活9年目。自分はこの4月に台湾の台中日本人学校で新年度を迎えることができました。まさか自分が海外で「教師」の仕事をするとは・・・教師1年目の初任者研修を送っていた、あの多忙な日々の真っ直中だった頃から見れば考えられなかったことであり、今でも「あっ！自分は今台湾にいるのか?」「いるんだなあ〜」と自問自答してしまうこともしばしばあります。

日本人学校の事を初めて知ったのは、教師2年目の春。新しい校長先生が赴任されたときでした。校長先生の名前は江原要七校長先生。以前台中日本人学校の校長先生をされていた方です。江原校長先生からは、以前起こった大地震の際に倒壊した旧校舎の話や、再建に向けて教職員や保護者の方々、児童・生徒や運営委員会の方々等、みんなが一丸となって頑張った話などを聞き感銘を受けました。今思うと、そのときから台中日本人学校と何か運命の繋がりが出来ていたのかもしれない。なにしろ、今自分は台中日本人学校で「教師」をやっているのですから、これが運命以外に何でしょうか?自分でもこわいくらいに運命を感じてしまいます。

台中での生活ももうすぐ2ヵ月が過ぎようとしています。最初は右も左も分からない感じでしたが、最近ようやく台湾での生活リズムに慣れてきました。デパートやコンビニでの買い物も楽しくできますが、市場や夜の市の雰囲気もまた面白く感じます。初めて市場へ行った時には驚きの連続でした。鳥肉が頭と足付きで売られていたり、中国語とは異なる聞いたこともない言葉(台湾語)を耳にしたり、といろいろありました。でも野菜をいっぱい買った時には葱をおまけしてくれることもあり、ちょっぴり嬉しく思いました。また夜市では、日本のお祭りの屋台の様なもの、という感覚で行って見たのですが、それは大きな間違いであることに気が付きました。夜市の会場では様々なお店が出ていて、食べ物はもちろん、爪切りや洗剤等の生活用品が売られているところもありましたし、マッサージ屋やUFOキャッチャーまであることにはびっくりしました。排骨飯や水餃などを注文する際には、店主へ気軽に注文し、頼みまでをも持ち帰り注文している姿を見たときには、夜市の存在が台湾の人々の生活の一部であることがよく分かりました。

自分の学校生活ですが、小学部1年生34人のみんなと楽しくわいわい過ごしています。4月に入学した頃と比べて、子どもたちは格段に変わり、成長の一步を辿っています。顔付きはピシッとしてきて、もう立派に小学生として歩み始めています。喧嘩も多々ありますが、「ごめんなさい」という魔法の言葉で、すぐ仲直りしているところに、子どもたちの素直さを感じます。

先日からプールでの水泳学習が始まりました。台中日本人学校では9月の終わり頃までプールに入れるということで、水泳好きにはたまらない環境です。でも中には泳げない子もいます。プールがある日は「嫌だな・・・」という表情で、何となく元気が無い感じです。そんな子どもたちにこそ、泳ぐ楽しさを知ってもらいたいと思っています。みんなと一緒にバチャバチャと水を思いっきりかけ合い、時には友だちと得意な泳ぎで競争するなど、いろいろな楽しみ方があります。自分の楽しみは晴天の下、プールの真ん中で息をプクプクと吐きながら沈んでいき、一番深い底で大の字になって水中から太陽を見ることです。この水泳学習では、1人でも多くの子が泳げるように、頑張っって声をかけていこうと思います。

いよいよ台湾の夏が始まろうとしています。周囲の皆様からは「台湾の夏は本当に暑いよ〜」と冗談と本気が半分ずつ入りまじった眼差しで言われます。自分は暑いよりも寒い方が苦手なので、台湾の暑さに早く慣れて、体調を万全にして、これからも励んでいこうと思います。



ちょっと足をのばして・・・

埔里にある、「台湾のへそ」へ行ってきました。今自分は台湾の島の中心部にいるんだなあ〜、と思うと嬉しくなりました。

本当の中心はこの記念碑の後ろにある階段をずっと登った山頂にあります。何段も登って疲れましたが、山の上から埔里の街を見下ろした際には、何だか台湾中を見下ろしているような気分になりました。



彰化へは、台中駅から各駅電車で20分。
彰化駅を降りた後は駅の裏手にある扇型車両庫へ行きました。

この車両庫は無くなる予定だったようですが、市民の熱心な保存運動があったおかげで、残されることになったそうです。

鉄道好きの自分にとっては、いつまでも眺めていたいところです。

(小学部 1年担任)

図書紹介

オリент急行とパンドラの匣(ケース)

はやみね かおる 作

今回紹介する本は、夢水清志郎という名探偵のシリーズ物語です。このシリーズの物語は、2006年までに15作ほど出版されています。どれも個性的な物語ですが、今回は、「オリент急行と、パンドラの匣(ケース)」という2005年に出版された物語を紹介します。オリент急行とは、ヨーロッパを横断する鉄道です。この物語での主な登場人物は2人。先ほど紹介した、名探偵の夢水清志郎と、世界中でお宝を盗んで回っている怪盗クイーンです。ある日、突然盗まれてしまったパンドラの匣。その匣をめぐる怪盗・名探偵・警察・海賊の物語が、オリент急行で展開されます。さらに、物語中盤から加わってくる謎の組織・黒猫とは一体!?

古都、イスタンブールから花の都、フランス・パリへ向けて、オリент急行が今、発車しようと・・・!!

作者であるはやみねかおるさんは、小学校教師で自分の受け持ったクラスの子供に、「どうしたら本が好きになれるか」と夢中になれる本を探しているうちに自ら本を書き始め、講談社の新人賞佳作に入選し、デビューすることになりました。彼の書く本は、子どもから大人まで、読みやすいということで評判です。推理小説シリーズ以外にも、現在では、「都会(まち)のトム&ソーヤ」という、冒険系の小説も書いています。

また、はやみねかおるさんの作品のあとがきには、いつも家族・読者の方々への感謝の意が述べられています。この感謝の気持ちを持つ心が、僕をこのシリーズにのめり込ませた原因でもあると思います。

図書館にもこのシリーズの本があるので、興味を持った人は読んでみることをお勧めします。きっと今までとは違う感触が感じられるシリーズであると思います。

最後に、作者の恒例の言葉で締めたいと思います。

「Good Night ,And Have A Nice Dream .」

中学部学習委員長